

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 広島県立賀茂高等学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校, 各種学校
 特別支援学校
 その他 (例: 小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒739-0043
広島県東広島市西条西本町16-22
E-mail kamo-h@hiroshima-c.ed.jp
Website http://www.kamo-h.hiroshima-c.ed.jp/
幼児児童生徒数 男子 327名 女子 376名 合計 703名
幼児・児童・生徒の年齢 15歳～18歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1, 2-1 に対応

当校は、生徒の主体的・能動的学習の方策として、「総合的な学習の時間」を Glocal Action Program (以下 GAP と略す) とし、ESD をその学習活動の基礎と捉えている。ESD を実践する上で、「地域課題に目を向けるとともに異文化活動に対応できるコミュニケーション能力を養う」、「問題解決に向けて、協働して主体的に行動する態度を養う」「グローバル社会と地域との関連性を理解し、自らの生き方との関わりを自分のことばで発信できる能力を養う」ことを目標としている。

具体的には、第1学年では、「課題発見を目指した地域学習」を柱に、①情報のインプット学習、②東広島を知る学習、③世界との繋がりを知る学習、④東広島を考える学習を行っている。第2学年では、「地域課題発見・解決案の協働提案」を柱に、①東広島をリサーチする学習、②東広島をデザインする学習、③東広島にプロポーズする学習を行っている。

<第1学年>

①情報のインプット学習

マインドマップ研修や新書講読を通して、地域社会に存在する課題を発見する。

②東広島を知る学習

外部講師の講演を通して、自分たちの郷土である東広島と世界の繋がりを知る。また東広島に住む人々から、地域に根ざした生活について聞き、クラスで情報の共有を行う。またその情報を活用してガイドブック英語版を作成する。

③世界との繋がりを知る学習

JICAの出張講義，韓国姉妹校との交流，広島大学大学院留学生との交流等を通して，自分と世界との繋がりを考える。

④東広島を考える学習

①～③で学習した知識を活用し，地域課題を「安心な暮らしづくり」，「あらゆる分野での人づくり」，「新たな経済づくり」，「豊かな地域づくり」の4領域に分類し，グループで協働し，それぞれの課題について思考し，次年度どの分野で研究を進めるかを定める。

<第2学年>

⑤東広島をリサーチする学習

各グループでリサーチする課題を設定し，夏期休業中にグループで東広島フィールドワークを行いながら，課題解決のための仮説を設定する。外部講師の講演や東京研修旅行班別研修などでリサーチを進める。

⑥東広島をデザインする学習

グループ学習を基本とし，研修旅行での学習や体験を通して，東広島地域の課題を自らのこととして深く考え，成果をポスターセッションで発表し，情報の共有を図る。

⑦東広島にプロポーズする学習

研修旅行における東広島地域の抱える課題について解決策の提案のプレゼンテーションを行う。



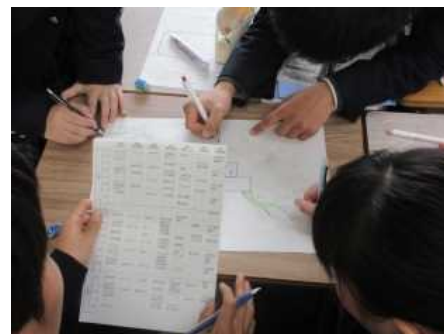
マインドマップ講演



社会人講演



留学生交流



カリキュラム・マッピング



東京研修旅行



ポスターセッション



東広島ガイドブック英語版作成

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解, 文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化, 文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input checked="" type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input checked="" type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的, 総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(韓国姉妹校訪問)	

エ. 使用した教材（書籍, ウェブサイト, パンフレットなど具体名）

国際連合広報センター発行資料, JICA 中国発行資料, 外務省 HP, 難民高等弁務官事務所 HP, 『開発教育基本アクティビティ集』 開発教育協会, 『何のために「学ぶ」のか』 ちくまプリマー新書 等

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

「総合的な学習の時間」を中心に教科学習、クラブ活動の中で行っている。関連性を持たせた学習が出来るときに、機をとらえて結び付けるようにしている。例えば、外国語の授業では、教材の環境保全、人権、フェアトレード、世界遺産と絡めて、今後自分の中で特に尊重したいSDGsについて考えさせた。ちなみに、第1学年では学年末のGAPの活動のまとめとして他教科と関連づけるマインドマップを行い、各人の日常の学習の営みとESDの観点が絡んでいることを確認させた。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

総合的な学習の時間等で多様な価値観を紹介するよう努めている。総合的な学習の時間では、持続可能な郷土づくりに焦点を当て、課題発見・解決学習を行った。

なお、どの学習活動においても単年度で終わるのではなく、前年度の実践をPDCAサイクルで実施し改善を図り、次年度のプログラムを作成している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

学校関係者評価委員（5名）と学校評議員（5名）による年度末の学校評価委員会において次のようなまとめがなされた。

<成果>

「総合的な学習の時間（GAP）」を軸に国際交流や課題解決の取組は充実しており、1年生はグローバルな視点から自己の考えをまとめる力、2年生はまとめた考えをポスターや小論文にまとめ、発信する力を着実に身に付けている。

<次年度に向けた改善方策>

GAPは2年間に渡る大きな取組であることから、1年次の学びや体験によって向上した意識を適切に2年次につなげ、地域課題の発見および解決に向けてさらに考えを深めさせることが重要であり、そのために地元の国際的な企業との連携を図るなど、世界との繋がりを意識できる機会を設ける。

⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

第2学年の総合的な学習の時間のプレゼンテーション大会では、安心な暮らし、あらゆる分野の人づくり、豊かな地域づくり、新たな経済づくりの四分野に生徒は分かれて課題研究発表のプレゼンテーションを行った。その表内容を第1学年の生徒に見せ、来年度の課題研究を行う前に地域の問題点や課題がどこにあるかを伝えることができた。

⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)(200字程度)

ESD コンソーシアムで地元大学生が作成したポスターを学校に持ち帰らせてもらい、総合的な学習の時間におけるポスター作成の模範例とさせて頂き、校内掲示させてもらった。作り方の工夫だけでなく、内容面も生徒に伝えることができて良かった。

※チェック事項 2-3 に対応

⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

姉妹校である韓国仁川市ミチュホル外国語高等学校と姉妹交流を行った。夏期休暇中には本校希望者生徒が韓国の学校を訪問し、異文化交流を行った。その後第2学期には日本語学科の修学旅行生徒団の受け入れ、授業体験や東広島と仁川市の紹介のプレゼンテーションをクラスで行った。併せて全体交流会では、ダンスパフォーマンスやフォークダンスを行い交流した。
この交流は今後も継続発展させる予定である。

⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき(特に強調したい)内容(例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化)(200字程度) ※チェック事項 2-5 に対応

生徒の主体的・能動的な学びを促すため、GAPの活動は協働的な学習活動を中心に行った。その結果、GAPのみならず各教科の学習においても授業が活性化し、生徒に積極性が見られるようになった。担当者は当初GAPでの教師の役割に戸惑うこともあったが、徐々にファシリテーターとしての役割を理解し、適切なファシリテーションにより生徒の能動的な学びや生徒同士の学び合いを引き出すことが出来るようになった。

(3) 平成30年度の活動計画(200~400字程度)

基本的には昨年度の活動を踏襲する。

<第1学年>

①情報のインプット学習

マインドマップ研修や新書講読を通して、地域社会に存在する課題を発見する。

②東広島を知る学習

外部講師の講演を通して、自分たちの郷土である東広島と世界の繋がりを知る。また東広島に住む人々から、地域に根ざした生活について聞き、クラスで情報の共有を行う。またその情報を活用してガイドブック英語版を作成する。

③世界との繋がりを知る学習

JICAの出張講義、韓国姉妹校との交流、広島大学大学院留学生との交流等を通して、自分と世界との繋がりを考える。

④東広島を考える学習

①~③の学習した知識を活用し、地域課題を「安心な暮らしづくり」、「あらゆる分野での人づくり」、「新たな経済づくり」、「豊かな地域づくり」の4領域に分類し、グループで協働し、それぞれの課題について思考し、次年度どの分野で研究を進めるかを定める。

<第2学年>

⑤東広島をリサーチする学習

各グループでリサーチする課題を設定し、夏期休業中にグループで東広島フィールドワークを行いながら、課題解決のための仮説を設定する。外部講師の講演や東京研修旅行班別研修などでリサーチを進める。

⑥東広島をデザインする学習

グループ学習を基本とし、研修旅行での学習や体験を通して、東広島地域の課題を自らのこととして深く考え、成果をポスターセッションで発表し、情報の共有を図る。

⑦東広島にプロポーズする学習

研修旅行における東広島地域の抱える課題について解決策の提案のプレゼンテーションを行う。

ただし、地元社会福祉協議会からの要請もあり、第1学年②「東広島を知る学習」では老人福祉・介護の方面で活動されている方を招聘するなどして、地域の高齢化に伴う諸課題についても、これまで以上に視野を広げたい。

また、生徒と共にGAPを中心に据えた学校全体の教科横断的カリキュラムの概念化および知の構造化を図りたい。